

資料

タイトル：教育 DX “学生によるラオス国での異文化理解動画教材作成の試み”

令和5年度戦略的教育支援等推進経費による保健学科学部生及び研究科大学院生による
ラオス国「貧困僻地郡における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクト」
報告と作成したビデオ教材の紹介

説明者 保健学研究科研究科長／医学部保健学科長 小林潤
医学部保健学科3年 仲山愛乃 2年 大城一葉
同席 医学部保健学科助教／保健学研究科博士1年 川満早

募集と用意

ラオス国で開始された JICA 草の根プロジェクト「貧困僻地郡における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクト」 サイトに、保健学研究科博士課程学生1名、保健学科学学生7名が9月8－18日の夏休み期間を利用して訪問した。医学部（医学科、保健学科）、SDG s 実践演習ライフサイエンス系受講学生を対象に募集を行い、応募があった学生7名を派遣した。保健学科学学生はクォーター制によって夏休み期間がとれるようになったことが有効利用された。

保護者の同意書、旅行保険の加盟、現地との調整は、小林の今までのNPO 法人の活動経験を活かして実施した。この中で、単に参加するだけでなく 学生の自主的な計画と訪問を行うために、7月末より10回以上の勉強会を行いプロジェクト全体像の説明を行った後、小林の指導のもと各訪問機関について各自が動画作成をするためのシナリオ作りを行った。また危機管理として、現地で気を付けるべき熱帯病をリストアップして、参加者すべてに勉強すべき疾患を振り当てて発表することを行った。

日程と活動

9月8－10日 沖縄発 バンコクからバスで移動国境を超えてサバナケット県へ
9月11日 サバナケット県保健局・県病院・訪問撮影
県保健短期大学 交流会撮影
9月12日 セボン郡保健局・郡病院 訪問撮影
プロジェクトパイロット村 宿泊撮影
9月13日 保健センター 訪問撮影
プロジェクトパイロット村 訪問撮影
9月14日 バスでビエンチャンへ移動
9月15日 保健省熱帯公衆衛生研究所・パスツール研究所訪問
9月16日 ビエンチャンから帰国
帰国後編集された動画は以下 YOUTUBE へアップ



<https://youtube.com/@URIC-nw5xq?si=tcGNmDe1ExxJPTWA>

現地プロジェクト概要

ベトナム国境地域の少数民族がすむセポン郡で2023年4月より開始された。ジェンダーの問題が色濃く残る地域で、多くの女性は出産に関する自己決定意思がすくない発展途上の地域である。同地域は10年ほど前までは森の中で一人出産することが大多数でもあった。さらに女性の識字率は極めて低く村落ボランティアは男性が選出されており、母子保健活動が効果的に実施されてこなかった。プロジェクトでは女性保健ボランティアを養成し男性ボランティアとペアで実施する活動を展開した前身のプロジェクトの経験を発展させたコンセプトになっている。この地域をみることは世界において、まだ母子保健の課題が多く残る同様な貧困僻地の課題解決に大きな還元ができると考えている。プロジェクトのモニタリング評価はラオス国では精鋭の公衆衛生の研究者がそろっているラオス保健省熱帯公衆衛生研究所と共同で実施する。現在、現地に派遣されているサブプロジェクトマネージャーは博士後期課程の大学院生で、小林のスーパーバイズのもとプロジェクトをラオス側とともに実施している。短期専門家としても本学若手研究者を派遣予定である。

<https://okinawaghealth.com/user.php?CMD=11540250000000>



<https://www.facebook.com/profile.php?id=100093157975697>



今後の活動

来年度の共通教育科目「SDG s 実践演習」や医学部の科目で作成された教材をもとに、学生が異文化を考える講義を実施する。これら講義は若手教官や大学院生を積極的に参加させる。ラオス国サバナケット県保健短期大学から学生を招聘し、学生交流のイベントを開催し、双方の保健医療や文化を理解するイベントを学生主体で実施する。また JICA 沖縄と協力して他大学や高校生学生に還元できる企画に使用する。これら活動によって異文化理解を超えて、アジア太平洋地域における共通した SDG s（女性と子供の貧困、ジェンダー課題）に関連した開発課題を認識しグローバルな視野をもち、DXの視点で教育を推進できる人材育成を狙う。

教育としては、今後よりサイバー／バーチャルな教材作成も検討する。